

使ってみよう統計 GIS

Statistical Room



近年、電子地図の上に統計データを重ねて表示させる「統計 GIS*1」の普及が進んでいます。例えば、国勢調査の小地域ごとの人口データが記載された統計表を眺めていても、位置関係を含め、すぐにはイメージが湧きにくいものですが、地図上に統計データを重ねて可視化することで直感的に理解することが可能になります。

誰でも利用できる統計 GIS の一つとして、総務省統計局及び独立行政法人統計センターが提供する無料統計 GIS ツール「地図で見る統計 (jSTAT MAP)*2」が挙げられます。「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」は、防災、施設整備、市場分析等、各種の詳細な計画立案に資する基本的な分析を簡単に行うことができます。

今回は、この「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」を活用して、今年 100 周年を迎える国勢調査の平成 27 年実施データの可視化を行いました。

図 1 市区町村別生産年齢人口 (15 ~ 64 歳)

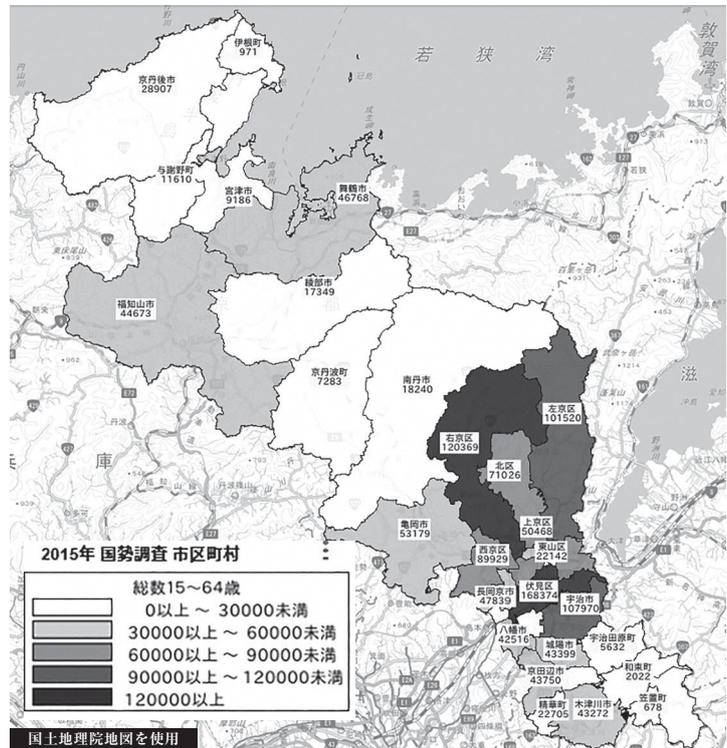


図 2 東舞鶴周辺の小地域別 75 歳以上人口

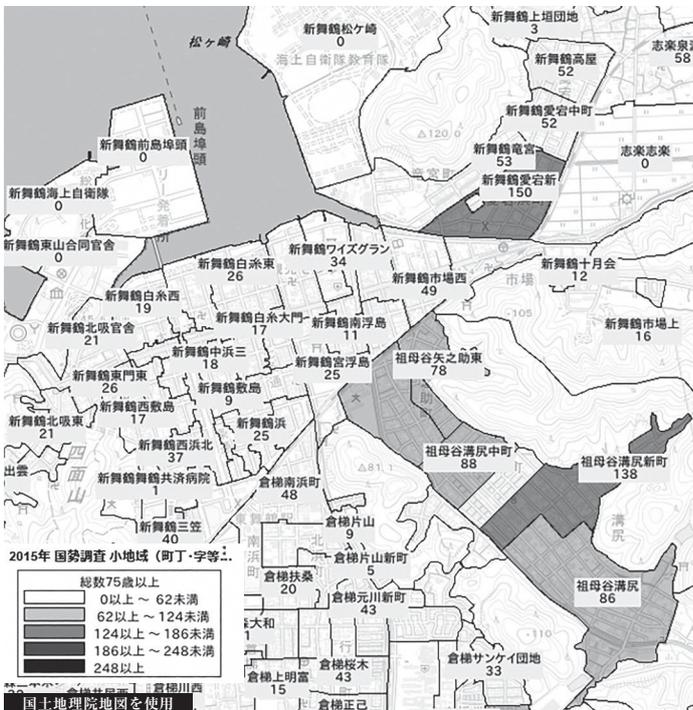


図 1 では、京都市区町村ごとの生産年齢人口 (15 ~ 64 歳) の可視化を行いました。色が濃くなるほど生産年齢人口が多くなることを示しています。「右京区」や「伏見区」で多くなっていることがわかります。

図 2 では、東舞鶴周辺における小地域別 75 歳以上人口の可視化を行いました。「新舞鶴愛宕新」や「祖母谷溝尻新町」等で多くなっていることがわかります。

このように統計データを可視化することで、スムーズに状況を把握することができます。

自治体や研究機関だけではなく、みなさまの身近な自治会活動等でも、ぜひご活用ください。

*1 : 地理情報システム (GIS : Geographic Information System) は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ (空間データ) を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術

*2 : 政府統計の総合窓口 (e-Stat) から利用可能 URL: <https://www.e-stat.go.jp/gis>